

委員会視察報告書

委員会名	議会運営委員会
------	---------

視察地	東京都杉並区				
調査項目	議会のD X化				
調査目的	杉並区議会におけるD X化の取組（LINE WORKS の活用）について、手法や効果を調査し、本市議会における今後の議会改革の推進を目的に視察を行った。				
日時	令和5（2023）年10月17日 午後2時～3時30分				
場所	杉並区役所（東京都杉並区阿佐谷南1丁目15番1号）				
調査概要	◆杉並区の概要 ・人口 572,468 人（R5.4.1）・面積 34.06 ㎢ ・杉並区議会 48 人 - 会派：4人以上（交渉会派）5、2人会派3、1人会派10 ◆杉並区で導入しているツール ○SideBooks（東京インタープレイ株式会社） ・文書管理機能（メモ機能、文書内検索機能等） ○LINE WORKS（ワークスモバイルジャパン株式会社） ・事務局⇄議員の連絡 ・SideBooks に格納した資料の通知 ・災害時安否確認等 「LINE WORKS」とは情報や予定を共有し合って活動する、組織・チームのためのコミュニケーションツール。LINE は個人で使うコミュニケーション用のサービスであり、LINE WORKS は法人向けのサービス。 ◆杉並区 ICT の取組（H27 年～） <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">H27</td><td> ・議会改革特別委員会 ・タブレット端末の導入検討開始 </td></tr> <tr> <td>H28</td><td> ・ICTに関する検討会（部会）の設置 </td></tr> </table>	H27	・議会改革特別委員会 ・タブレット端末の導入検討開始	H28	・ICTに関する検討会（部会）の設置
H27	・議会改革特別委員会 ・タブレット端末の導入検討開始				
H28	・ICTに関する検討会（部会）の設置				

H29	・文書共有、コミュニケーションツール及び利用 ルールの検討
H30	・ICT 活用推進検討会の設置 ・LINE WORKS (4 月)、SideBooks (5 月) 導入
R1	・議会専用の Wi-Fi 整備 (議場・委員会室等)
R2	・コンバーチブル型 2in1PC の導入 (12 月)

◆LINE WORK の導入

- ・平成 30 年 2 月 (第 1 回定例会) に体験会を実施
- ・平成 30 年 4 月から運用開始

《使用方法》

- ・お仕事版 LINE
- ・事務局と議員の連絡手段
- ・事務局による議員に対する掲示板
- ・災害時の安否確認・緊急連絡手段

《利用端末》

- ・事務局：業務用 PC (ブラウザ)
- ・議員：貸与 PC (アプリ)、私物のスマートフォン、タブレット等 (アプリ)
- ・利用人数：議員 48 人、事務局 20 人 (合計 68 人)
- ・利用料金：300 円×68 人×12 月×1.1=269,280 円

◆導入に当たり実施したこと

○「コミュニケーションツール利用ルール」を策定

- ・平成 30 年 6 月に策定
- ・利用目的、アカウントの管理、運用ルール等を記載
- ★メッセージに対する「既読」表示があれば、連絡を確認したこととする。
- ★事務局職員の使用は、業務時間のみ (緊急時を除く)

○「議会運営申し合わせ事項」による禁止事項の設定

- ・会議と関係ないアプリケーションの利用

○各会派の ICT 活用推進検討委員会委員によるフォロー

- ・導入時より実施
- ・各会派から 1 名ずつ委員会に参加
- ・LINE WORKS の利用方法等の問合せを自会派の ICT 委員がフォ

ローすることとし、事務局の負担を軽減することを目的とした→各議員の習熟度を高めることができた

○既読率の一覧化

- ・導入時から令和2年まで実施
- ・議員個々の既読率を調査し ICT 活用推進検討委員会で共有→既読率が低い議員に対して所属会派の ICT 委員がフォロー
- ★全体の既読率は当初約 60%であったが、令和2年度には90%近くまで向上した

◆LINE WORKS の機能

トーク	1 対 1、グループ内の個別連絡
掲示板	事務局から議員へ一斉連絡
カレンダー	議会予定の掲載
アンケート	日程調整や安否確認

◆LINE WORKS の活用実績

○議員個々への事務連絡＝トーク、グループ

投稿先	内容
トーク	1 対 1 など個別の連絡をする場合
グループ	事務局から委員会に所属する特定の議員など、複数の議員に連絡したい場合

○議会事務局から議員への一斉連絡＝掲示板

掲示板	内容
事務局からのお知らせ	事務局からの連絡や事務日程等のお知らせを配布
区のお知らせ	区の緊急度・重要度の高い情報提供を配信 ＊行政から事務局に相談、緊急度・重要度が低いものは紙資料を議員ポストに投函
議会資料の配布	議事日程や一般質問の提出状況などを電子データで配信
各委員会・部会	各委員会の所属委員への連絡を該当する委員会の掲示板に配信（委員会の日程調整、視察の案内・集合場所など） ＊権限設定により閲覧は所属委員のみ可能 ＊非所属の委員会は非表示に設定

○議会の予定＝カレンダー

- ・本会議、委員会、視察等、議会の予定を共有カレンダーに事務局が登録
- ・事務局職員と議員の打ち合わせ予定を議員個人のカレンダーに登録
- ・カレンダー機能で議会の予定がすぐに確認できることが議員に好評

○日程調整＝アンケート

- ・委員会開催日や行政視察等の日程調整に活用
(都合の良い日・悪い日を選択して集計)
- ・電話等に比べて日程調整にあっかる時間を大幅に削減

○安否確認＝アンケート

- ・議員の災害時の安否確認に使用
- ・災害時を想定した安否確認訓練を毎年実施

◆導入による効果・メリット・デメリット

○議員

効果・ メリット	・時間が空いた時に連絡を確認できる ・情報が集約され、必要な情報にアクセスしやすくなった ・議会のスケジュール確認がしやすくなった ・LINE を使っている議員が多く、スムーズに運用を開始できた ・自宅等で資料の確認ができる ・「便利になった」との声が多い
デメリット	なし

○事務局

効果・ メリット	・議員への連絡や日程調整が、電話・メール・FAX 等から変わり、業務の効率化や迅速化が図れた ・議員の都合を気にせず連絡できる ・電話や口頭の連絡では失念する恐れがあったが、ツールを介しての連絡により記録として残せるようになった ・区からの緊急案件を全議員に周知すること
-------------	--

		が容易になった ・連絡に伴う職員の心理的負担が軽減された
	デメリット	・活用していない議員への対応 →情報に差が出ないよう、業務によっては電子と紙の両方で対応しているものがある ・議員からの時間外の連絡 →原則、業務時間中に対応することとしているが、内容によっては対応せざるを得ない場合もある ・システム更新後の機能変更 →システム更新によって、過去にあった機能が変更され、更新後に使えなくなることがある

事前質問への回答

1. LINE WORKS 導入の背景、経過について

議員側からコミュニケーションツール、アーカイブの必要性を投げかけた。タブレット端末導入に伴い検討し、使い勝手の良さや既に持っている端末で利用できることから導入した。

2. LINE WORKS 導入後の議員側の影響、効果について

ほとんどの議員から好評。場所や時間を選ばずに使用でき、日程調整時間の圧縮など効率化、安否確認、有事の際の情報提供が可能となった。コロナ禍で特に成果があった。

3. 議会におけるデジタル機器の活用状況について

パソコン更新時期に合わせて議員の意見を踏まえて検討し、導入している。議会関係諸室に Wi-Fi を整備したほか、SideBooks に議案を格納し、LINE WORKS を連絡ツールとして資料通知や安否確認等にも活用している。

4. 議会運営委員会理事会の役割について

平成 22 年に会議規則を改正し、従前の幹事長会を廃止し、法第 100 条第 12 項に基づく協議・調整を行う場として設置。

同時期に議会運営委員会理事会運営規定を定め、議会運営委員会委員長及び所属議員 4 人以上を有する交渉会派の代表各 1 名で構成することとした。一般傍聴はなし、議員は傍聴可。

議会運営の実質協議の場として設置し、日程等定例的なもの

	のほか、全員協議会や予算・決算特別委員会の質疑持ち時間の協議等を行う。 <u>5. 新人議員の育成について</u> 改選後、新人議員の説明会を2回実施。1回目は財政、企画など区の計画や財政について説明し、2回目は事務局から議会運営、議会費、政務活動費、DXツールの説明を行う。
視察の様子	 全体写真  説明の様子
質疑応答	質問 LINE WORKS を選んだ理由は。他のツールも検討しなかったのか。 回答 汎用性の高い LINE との類似性、使いやすさやプッシュ通知機能を検討した結果、LINE WORKS を選んだ。 質問 LINE WORKS を含めて DX 化のコストは。 回答 LINE WORKS の利用料金は年間に 27 万円弱だが、Wi-Fi 環境維持にはコストがかかる。導入に当たり、財政部局にはペーパーレスによる経費削減効果を説明した。

質問 1人会派が10人いる状況では、LINE WORKS のリアクション機能により情報伝達の把握がしやすいということか。

回答 リアクション機能により既読・承知されていることを確認できることは、連絡ツールの大きなメリット。少数(1人)会派の議員グループを作り、連絡している。リアクションされていない議員にだけ確認連絡すればよくなり、事務局の負担軽減につながっている。

質問 議案は全て SideBooks に格納され、議員は PC やタブレットを用いて審査するということか。

回答 電子機器を使える環境は整備しているが、紙媒体を用いて審査する議員もいる。

質問 電子データの取扱いは。

回答 電子データは公文書扱いになっていないので、いまだ議案等は紙媒体の配布と電子データ配信の両方が行われ、人事案件等は黒塗りで配信される。議会 DX 化の目的は業務効率化であり、ペーパーレスが主眼ではないが、いずれはペーパーレスの面でも対応できるようにしたい。

質問 柏崎市議会は当局サイドに合わせて desknet's NEO を導入したが、杉並区の行政サイドはどうか。

回答 杉並区ではスケジュール管理・メール送受信はスターオフィス、最近はロゴチャットの導入を進めている。行政の DX 化は議会の後追いであるが、行政は LINE WORKS を使用できない。また行政が用いるツールは使い勝手が悪い。Word や Excel のファイルはスマートフォン上で LINE WORKS を使う場合には読みにくいため、行政側には PDF 化した文書を求めるようにした。

質問 一般質問の通告等、電子媒体での提出は。

回答 一般質問の通告は紙のみを受付ける。

質問 政務活動費の提出や視察報告などは電子データでやり取りは可能か。

回答 政務活動費の帳簿を電子化し、LINE WORKS を用いて提出している。視察報告書等も電子データで提出可能。

	(補足) LINE WORKS は貸与であり、情報公開を求められた場合に公開に耐えられるよう、個人情報を含むやり取りは行わないこととしている。
委員会所感	【持田副委員長】 情報や予定を共有し活動する LINE WORKS を議会業務の円滑化・改革に資するために導入。それは、議員と事務局の円滑なコミュニケーションの実現と作業効率化を目指したこと。ほとんどの議員が LINE を使っていたため無理なく導入へとつながったとされた。導入する絶対的な課題は、誰が読んだか分かること、議会の日程調整が容易にできること。この点で LINE WORKS はアンケート機能と既読機能があり、また災害時の安否確認ができることから選択へと進んだ。さらに議会日程の調整に議会事務局の心理的負担も多かったため、この解消へ向けて一定の効果があることも確認されている。これまで議会の ICT 化に力を入れ進めてこられた、渡辺富士雄議員が同席されたことに深く感謝する。 【布施委員】 LINE WORKS の活用ということで非常に参考になりました。現在当市では desknet's を使用していますが、毎日大量のデータ化された文章が送られてきていますが確認済を押さないと事務局側は果たして議員が確認しているか判断が非常に難しくこの点からも事務処理の煩雑さを減らせていないが LINE WORKS であれば見た時点で既読になり見ていないという議員側の言い逃れを防ぐことができますし操作も簡単なので高齢議員にも扱いやすいと思いました。DX も日々より使いやすく進化していると痛感いたしました。 【佐藤正典委員】 杉並区議会の DX 化は LINE WORKS の導入、活用が主なものである。平成 30 年 4 月から運用を始めているが、導入以前と比べればほとんどの議員が便利になったと回答していて、コロナ禍での議員の安否確認にも効果を発揮したとのことである。これらのことは柏崎市議会が desknet's を運用しているメリットと同様であり、通常行う議員への事務連絡や会議等の日程連絡などでは、簡易にスピーディーに行えているとの説明であった。一方で、電子データの議案が公文書扱いになっていないことや、個人情報の取扱い、ペーパーレス化の推進、行政側と異なる独自のシステム運用など、複数の課題もある。柏崎市議会として

も更なるDX化を進めていく上で、こうした課題を今後の参考としたい。

【近藤委員】

杉並区で使用する LINE WORKS は、スマートフォンでの閲覧が容易であり、情報伝達がされたか確認しやすいことから、議員の見逃し防止及び事務局の負担軽減につながっていることが理解できた。特に、会派に属さない議員が多数いる杉並区議会の現状において、非常に有効だと思う。ただしツールが何であれ、連絡や情報を確実に得るには、議員自身の自覚と責任感が必要だと感じる。自分自身、確認を怠らないよう気を付けたい。

【三宮委員】

柏崎市議会と言えば desknet's に相当するアプリであり、杉並区 LINE WORKS の機能は desknet's ではほぼ網羅されていると思う。LINE WORKS の機能のうちアンケート機能については日程調整などの場面で使いやすいと感じた。

【佐藤和典委員】

議会事務局と議員、また、議員間での連絡のため、LINE WORKS を導入している。杉並区は 48 人の議員中、会派に属さない議員が 10 名、2 名会派が 3 つという構成のため、連絡手段の迅速化、意思疎通の強化においては強力なツールになると考える。導入に当たって、「メッセージに対する既読表示があれば、連絡を確認したこととする」という利用ルールは効率が良い。柏崎市議会で使用しているデスクネッツも良い機能はあるものの、既読することにより、内部に格納されてしまうので、使い勝手が悪い上、事務局と議員とのコミュニケーションに難が出やすいと考える。使い方に改善の余地はある。

【星野正仁委員】

視察項目は、議会の DX 化についてでした。特に LINE WORKS の導入の背景、経過、議会活動への影響及び効果について説明を受け質疑を行いました。導入の際には柏崎市で使っているデスクネッツと比較された結果の導入。議員のメリットとして、確認・情報・「LINE」利用者が多くスムーズに運用できた・自宅での資料確認・総合的に「便利になった」。事務局のメリットは、議員への連絡・日程調整の効率化・迅速化が図られた・緊急時の対応・事務職員の心理的負担が軽減・連絡事項が記録で残せる。導入後のデメリットは、活用していない議員への対応・議員からの時間外連絡への対応・システム更新後の機能変更への対応。デメリットの対応として既読率の向上策として一覧化に

	より既読率の低い議員へ会派から対応により 60%を 90%に向上。この取組は参考になりました。その他では、導入に当たり利用ルールの策定・「議会運営申し合わせ事項」による禁止事項を策定。この取組は参考になりました。今回の視察で参考になった事項を柏崎市議会で生かしていきたいと思います。 【真貝委員】 杉並区議会は、SideBooks 及び LINE WORKS を導入し議会の DX 化に取り組んでいる。柏崎市議会は、SideBooks 及び desknet's NEO を導入しているが、機能的にはほとんど差がなく、desknet's NEO の機能を十分に活用している柏崎市議会の取組が進んでいることが確認できた。LINEWORKS を活用した災害時の安否確認訓練を毎年行っている。この点は、柏崎市議会も様々な防災訓練の際に行ってもよいのではないかと考える。
--	--